

# 英語スピーチ世界大会(来月)に出場

米国シカゴで8月に開かれる英語スピーチの世界大会に、ニューヨーク出身で徳島市( )の英会話講師マラマ・カーマイケル岸本さん(39)が日本代表として出場する。ふだんは小中学生らに英会話を教えながら、自身のスピーチ力に磨きをかけているマラマさん。英会話でもスピーチでも「一番大事なものは自信を持って意見を言うこと」と力を込める。

**マラマ・カーマイケル岸本さん(徳島市)**



出場するのは、米国の「ナル」が毎年開いている教育団体「トーストマス バブリックスピーキング」タース・インターナショナルの世界大会。同団体には1

## 自信持ち話すこと大事

41カ国に約35万人の会員が所属し、スピーチを通じてリーダーシップやコミュニケーション力を身につける活動が続いている。

マラマさんは、加盟団体の徳島トーストマスタースクラブに所属している。県と中西国予選を通過し、5月に東京で行われた国内最終予選に出場。何事にも挑戦する大切さを7分間のスピーチで訴え、地区代表8人の中で1位となった。

世界大会は各国代表の約100人が自由テーマで競う。求められるのは話術やユーモアのセンス。「誰もが共感できる話題を選び、反応を意識しながら、聴衆と一緒にスピーチを作り上げる気持ちで臨む」。歴代優勝者の発表をまとめた映像を見るなどし、スピーチ力向上に余念がない。

ニューヨーク生まれで、英国スコットランド育ち。英語を教えるため2006年に来県した。渡米経験がある貴史さん(39)と知り合い、08年に結婚。2男1女を育てながら、人に出会い、視野を広げてほしい」と語った。

「日本では学生でも意見を言わない人が多い。最初から完璧を求めず、間違ってもいいから、自信を持って自分の考えを話すことが大事」と強調する。

英会話教室では積極的

「自分に自信を持って話すことが大事」と呼び掛けるマラマさん(左)と夫の貴史さん(右)徳島市内の自宅

ながら、夫婦で英会話教室を開いている。来日当初は日本語をほとんど話せず、市役所や銀行、郵便局などでは苦労した。体調を崩した時に医師にうまく容体を説明できず、困った経験もある。

徳島で英語を教えるようになって残念に思うのは、英語学習に多くの時間を費やしながら話せる人が少ないこと。かつて、母国で英語を教えた時、スペイン人やユタヤ人の子どもたちは、文法を知らなくてもどんどん話しかけてきた。